

コンピューター実習 No. 1

TEX

桂田 祐史

2022年10月7日, 2022年10月7日

1 はじめに

卒業研究のテーマ選択の自由度は高いが、コンピューターを活用するのはほぼ間違いないので、使用する可能性の高いことには習熟してもらいたい。

卒業研究レポート作成にどのツールを利用するか強制する気はないが、TEX (L^ATEX) の採用は検討してもらいたい。そこで 2022/10/17 現在輪講しているところについて、レポートの形にまとめて提出してもらおう。

2 TEX 実習

2.1 インストール、設定

現象数理学科 Mac にはインストールはされているはず。
設定も済んでいる人が多い？設定はやってみせるが、次の資料にも載っている。

<http://nalab.mind.meiji.ac.jp/~mk/knowhow-2019/node2.html>

2.2 情報入手について

TEX で数式をどのように入力するか、ネットで情報が探しやすいが(“TeX 分数” とか “TeX 積分” 程度で検索できる)、とりあえず「TEX 入門 (2022 年版)」¹ の最初の 50 ページを印刷して配布する。

2.3 動作チェックと練習

TEX の動作チェックは

<https://m-katsurada.sakura.ne.jp/labo/text/tex2022/node8.html>

の myfirst.tex などで行う。

その後、「5. 簡単な数式」² で少し練習した後、各自のレポートの入力を始めてもらう。

¹<https://m-katsurada.sakura.ne.jp/labo/text/tex2022/>

²<https://m-katsurada.sakura.ne.jp/labo/text/tex2022/node20.html>

2.4 試しにレポートを書いてみる

- タイトルを書く。
- 氏名を書く。
- 日付を書く (西暦推奨)。
- 必要に応じて section や subsection にわけろ。
- 目次を作る (ちなみにページ番号は自動的につく)。
- 参考文献表を作る。今回は神永 [1] くらいか。自分で何か参考にしたものがあつたら、それも入れること。
- 図を入れる練習として、最低1つ図を含める。
- (これも練習のため、できるかぎり) プログラムを含める。

参考文献

- [1] 神永正博, Python と実例で学ぶ微分方程式 ～はりの方程式から感染症の数理モデルまで～, コロナ社 (2021/10/6).